

「重慶と広島 菊花の造形展」 について

西澤永恵・荒木大蔵

広島市植物公園では、平成元年から毎年、10月下旬から11月上旬にかけての2週間、中国重慶市から寄贈された中国菊を中心とした展示を行っている。重慶市友好都市提携30周年と当園の開園40周年にあたる平成28年度の展示は、屋外展示場および大テントにて、10月29日（土）から11月13日（日）の16日間行い、現在保有している中国菊87品種のうち42品種と、中国での菊の展示方法のひとつである造形、広島市菊友会の協力により会員が育てた大菊と盆栽菊を展示した。

1 中国菊

中国菊の展示状況は表1および写真1のとおりである。栽培管理は例年のとおり行った（4月下旬からさし木、5月中旬から鉢上げ、6月に摘心と中鉢上げ、7月に整枝、7月中旬から大鉢上げ）。今年は例年に比べ開花が遅かったため、展示期間終了後も開花した品種を展示した。

2 菊を使用した造形

中国を連想させやすいパンダと龍の造形を作成した。造形の前で記念写真を撮る来園者が多かった。

パンダの骨組には、径18mm、長さ1800mmと2100mmのハウスパイプを使用した。長さ1800mmのパイプを立て4本足の支柱とし、パイプを半円状に曲げ、上下300mm間隔で取り付け、頭と胴体の2つの球状の骨組を作成した。4号鉢の懸崖仕立て用の小菊赤150鉢、白150鉢を購入し、骨組みに結束帯で固定した（写真2左）。

ローソク仕立ての小菊鉢64鉢と龍の模型とあわせ、紅葉の山の雲間から出現する龍を表現した（写真2右）。

3 日本菊

広島市菊友会より、大菊3名、盆栽菊1名の出品があった。大菊は白、赤、黄の3本仕立ての鉢12鉢を、背の高さをあわせ、色が上下で重ならない配置で展示された（写真3左）。盆栽菊は小菊による5鉢で、山水を表現された（写真3右）。

表1 平成28年度中国菊出展状況

墨荷	青春似火	金牡丹
玄墨	英紅灑霜	緑孔雀
老墨菊	白鶴展翅	粉キ龍
墨獅子	大風歌	葵花向陽
緑牡丹	白彩紅	山城之光
溪山秋雨	風清月白	玉容和酔
紫龍珠	黄キ龍	萍水想逢
翡翠嶺	紅雲托桂	勝似春光
紫金珠	金背大紅	騰細波
墨砂金	金牡丹	玉笙寒
墨麒麟	錦袍元帥	垂運聖火
春意濃	粉キ龍	錐園緑竹
青春似火	紅雲托桂	紫風仙
紫菊墨菊	金背大紅	棕毛刺



写真1 展示風景

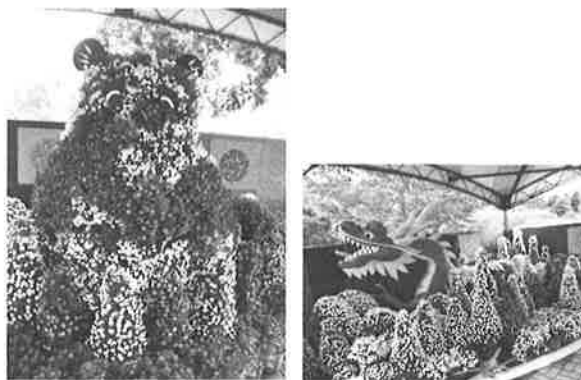


写真2 菊を使用した造形



写真3 日本菊